

病源根
治療法
灸術要議

和漢歷聖の御遺教
諸病に功驗神の如き

268
513

灸術要議序

吾人は現代を越闕するに頗る健康を保たざるへ
す若し不幸にして不健康の人たらんか巨額の財
瓦石に等くして春夏秋冬に於ける天然の妙味も
るこそ能はず常に人生を悲觀し不平や煩悶に苦み
から誠に淋しき生涯を送らざるへかざるに至る蓋し
國民悲感の極は之を少にしては一家の滅亡之を大し
ては國家の裏退を來せるこそ東西歴史のよく証明せ
る所也昔古より汎く行はる、彼の壯灸(やいこ)は數
年痛んで快復せざる病を克く全治せしめ又罹病を豫
防するに驚くべき功驗あるこそ諸彦の認ゆらる、る



也先進國たる歐米各國の文明は日に月に輸入し來り
我國民又舊來の學説を捨て、新進の學説に則り藥物
療法の盛なる時支那聖人の遺經に基き本書を發刊せ
らるゝ又故なきにあらず一言以て序文とす爾云

明治四拾四年辛亥の春七拾五才一大老醫謹誌

人の最も悲なる境遇は樂み全くなくして

悲み勝さの身の上なり 「古語」

注 意

精神ト肉體トハ恰モ車ノ兩輪ノ如ク、鳥ノ兩翼ノ如ク其關係ハ極メテ至深且微妙ナ
ルモノニシテ互ニ相待ツコト甚大ナリ故ニ肉體上ノ現象ニシテ精神上ニ種々ノ影響
ヲ及ボスガ如ク、精神上ノ現象モ亦肉體ニ種々ノ影響ヲ及ボスコト争フヘカラサル
所也「病ハ氣カラ」ト言フ我古來ノ諺ハ半面ノ眞理也、人ノ病氣ノ中ニハ全ク精神カ
ヲ來ル者モ少クナイ故ニ名醫ハ諸種ノ病氣ヲ藥物療法ノミニ依頼セス精神療法ニモ
重キヲ措キテ慰メタリ勵マシタリ力ヲ付ケタリシテ唯ソレハカリテ全治スルコトア
リト言ヘリ舊幕時代ノ大儒者佐藤一齊先生ノ句ニ「小藥是草根木皮、大藥是衣服飲食
、藥原是治心修身」ト一大聖語ナリ

(一) 施術の四圍は寂靜なることを要す、術者か灸を施すに當り成るべき先づ四圍
の騷擾せるところを避くへし即ち絃聲歌舞の所又は紛雜熱鬧の市を避け閑寂身に
しむ所の地を選び或は座に不必要なる傍觀者を居らしめす窓より音響の入り又は

忌灸の事

四季人神

春 左脇 夏 臍 秋 右脇 冬 腰

毎日人神

一日	足大指	二日	外踝	三日	腹内
四日	腰	五日	口	六日	手
七日	内踝	八日	足腕	九日	尻
十日	腰背	十一日	鼻柱	十二日	髮際
十三日	牙齒	十四日	腕脇	十五日	遍身
十六日	胃	十七日	氣衝	十八日	股
十九日	足	二十日	内踝	廿一日	手ノ小指
廿二日	外踝	廿三日	肝俞足	廿四日	手陽明

天災地變の日も凡て施術者被術者とも聴覺に異條あれば適せず

(二) 術者の云爲動作等重々しからんことを要す、術者の云爲行動輕薄野卑に失するときは被術者の信頼心を弱め施術の効を奏すること少きし故術者は常々言語を壯重にし度作進退を端正に保ち以て被術者の信頼心を強からしむることに注意すへし是灸術の療法のみならず一般の藥物療法に於ても殊に然りとす

(三) 施術の時嚴むることを要す、いよく施行するに當りて總ての形式か嚴に非されは被術者は豫期心淺弱をらしめ其功驗も從つて輕少あり

(四) 被術者は灸前三日後七日房事を慎むへし其他怒り氣分靜ならざるときは飢飽酒酔れ其他天災地變激しき風雨電震又は寒暑の甚たしき日には禁止すへし灸の後風呂湯に入り又は風に當る等の事あるへからず洗足は翌日より用ゆへし

(五) 灸する間の食物 生物、冷物、酒類、けい肉、めん類等を禁忌すへし

(六) 灸、るくひて癒ざるときは卵の黄を付治すへし

廿五日 足陽明經ノ穴 廿六日 胸

廿七日 膝

廿七日 膝 廿八日 陰

廿九日 膝脛

三十日 足跌

十二時の人神

子足 丑頭 寅耳 卯面 辰頂 巳手 午胸
未腹 申心 酉背 戌腰 亥股

血忌及血支日

(上忌日、下支日)

正月 丑 丑 二月 未 寅

三月 寅 卯

四月 申 辰 五月 卯 巳

六月 酉 午

七月 辰 未 八月 戌 申

九月 巳 酉

十月 亥 戌 十一月 午 亥

十二月 子 子

長病日

六日 十五日 十八日 廿三日 廿四日 廿八日

廿九日

文殊菩薩傳來ノ悪日

舊正月、七日 二十日 二月、二日 九日 三月、九日 廿一日
四月、十八日 廿五日 五月、六日 廿三日 六月、十七日 廿三日
七月、八日 廿三日 八月、十八日 廿五日 九月、三日 廿三日
十月、一日 廿三日 十一月、二日 二十日 十二月、九日 廿二日

此ノ日家ノ業務ニ一切凶

右ノ時刻又ハ日ナドニ初メテ灸ヲ爲スコト忽レ

男女一代の間毎年灸を忌む月日事

子年 二月午日灸悪し三年以内に死す、十二月未日灸悪し、其日に死す
 丑年 二月寅日灸悪し癩病となり、十二月酉の日灸三日の内おこり病とさる
 寅年 正月卯日灸三年の内死すへし、三月巳の日灸目くらになる
 卯年 二月灸廿五日以内に死す、四月申の日は其日に死す
 辰年 三月亥日灸しんけい病となり死す、十月戌日灸三年の内死す、十月酉日は中風となる
 巳年 一代灸さわりぬし、四月巳日凶土性乃人は四季の土用に灸三年の内に死す
 午年 六月子日肺病となりて三年乃内に死す、十月子の日午の日其年に死す
 未年 六月卯日灸こしぬけとさる、十一月午日灸は三日の内死す
 申年 七月辰日灸癩病となり、十一月子日は肺病となりて死す
 酉年 六月酉日八月午日灸其日に死す、女はちゝを病むて死す

成年 正月卯日三月巳日九月酉日灸之血をはきて死す
 亥年 六月午の日九月巳の日十月丑日灸、十日の内死す

艾葉の製法

本草ニ云ク艾味苦氣微温陰中陽無毒主灸百病三月三日五月五日採艾殊在神靈日ニサテシ曰ニテ撞キテ後手ニテ揉綿ノ如クニシテ用ユヘシ年ヲ經タルモノハ彌佳ナリ紙ニテ巻キ長サ二分計ニ切ルヘシ闊ハ切口三分計人ノ氣力ニ應シテ大小ヲ量ルヘシ小ナレバ兪穴ニハツルハコトアリ千金ニ黄帝同灸不三分是謂徒寇炷務大也小弱乃小作之明黨下經曰凡灸欲炷根下廣三分若不三分即灸氣不能達病未能愈小兒ニハ小麥程ニスヘシ氣力弱キ人ニハ和カニヒネリテ用ユヘシ

新 舊 時 刻 對 照 表																												
舊	九	八	七	六	五	四	九	八	七	六	五	新	正午	後	時	支	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳
	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	正午	二	四	六	八	一〇	二	四	六	八	一〇	一	三	五	七	九	刻
							午前																					

昔ノ時刻ハ一日ヲ十二ニ分ケテアルソレチ一分二分ト別ケテ四ツ八分ト稱ス五ツ二分ナドト稱ス
又別ニ一日ヲ百ニ割リテ一刻二刻九十三刻ナド數ヘ一刻ヲ更ニ百ニ分ケテ一分二分ナド稱ヘテ居レリ

「以下最上位ノ數字ハ圖面ト照合用ニシテ中央ノ數字ハ穴ノ數最下位ノ數字ハ灸ノ數ト知ルヘシ」

- 一 上 星 六 一 灸 五
- 頭痛、目暈、立くらみ、吐血、鼻血を治す、前の髮際より一寸上也
- 二 水 溝 「一名人中」 一 三
- 癩洞、中風、黃疸、狂乱、中要を治す、鼻の下なり
- 三 百 會 一 十五
- 腦重く、頭痛、目暈、おらゑつたを治す、眉の中央より八寸上ふり
- 四 風 地 二 七
- 頭痛、うなじこわり、腦病、目暈、立くらみ、編正の頭痛を治す
- 五 湧 泉 七 二 三
- 心痛、中暑、胃痛、五指悉く痛を治す、足の浦のくぼみなり

六 阿是 八

胃病、食傷、虫積つめ込、疝氣、中暑かく乱を治す

七 合谷 二

頭痛、齒痛、鼻血、背腰痛、面腫を治す、大指と人差指との間なり

九 肩井 二

上氣、頭うなじ痛中風よだれ出てかたらす者を治す、肩の中央なり

十 曲池 二

手肘、痛風はるせ、月經不通、頭痛、齒痛を治す、手のむじをかゝめて外折目の處也

十一 間使 二

大便水の如く下る者一度灸すれば止むなり、手首の横よ五寸上也

十二 大陵 二

手肘ひきつり痛、胸脇痛、からゑすき、こうひ、口のわき、心痛、眼病を治す

十三 小府 二

肘しびき痛、脇ひきつり、胸痛、心痛、心痛るこりくみたちぬ者を治す

二

十四 陰谷 二

疝氣、足びた痛、辜丸炎、陰なへる、男虫脹を治す、足びたの内折目の先に點すへし

二

十五 三陰交 二

胃弱、足なへしびれ、産後の血下りて多く目暈するを治す、足の踝の三寸上なり

二

十六 腹溜 二

赤痢、胃病、血痔、月經不通、足冷たる者等を治す、足の内踝の上二寸なり

二

十七 大谿 二

心痛足冷なへ、胃痛、婦人此ノ穴灸すきは子あり、足の内踝の後へ五分あり

二

十八 大都 二

手足冷痛、腰痛、胸痛、骨痛傷寒を治す、足の大指をかゝめ折目乃先に點す

二

十九 肩 髃

中風、手足かなわと、肩肘痛を治す肩のはづれなり

二

十五七

二十 臂 臑

肩うでまびれ痛くびうめまひきり痛を治す、曲地の七七寸なり

二

七

廿一 天 井

心痛、咳嗽、上氣、癩痢、中風を治す、手肘のどより骨の上一寸兩筋の間なり

二

五三

廿二 風 市

腰の痛、脚氣足しびき、腰ひきつり痛、足たるき病を治す

二

廿一

廿三 三 里

胃中冷痛、足びた痛、脚氣、足しびき、目暈、立くらみ等を治す

二

廿十三

廿四 陽 交

腰足冷痛、諸筋に痛、痿麻質斯を治す、足外踝の上七寸又ハ四寸に点す

二

七

廿五 縣 鍾

食不進にして腹脹了、腰膝節痛み、立居ならぬ等を治す、足の外踝の上三寸絶骨陽輔の一つなり

二

廿六 岷 崙

腰尻の痛、肩背の痛、土脚氣、小兒驚間、胸脇痛病を治す

二

五

廿七 束 骨

頭うめじ痛、腰背足の痛、泄瀉、痔疾、癩痢、腫物一切を治す

二

三

廿八 行 間

淋病、嘔吐、腹下り、臍の中痛、婦人の月經多下止らざるを治す

二

三

廿九 天 突

のろ腫痛、のぞの中に瘡を生じうみ血を吐を治す、結喉の下四寸也

一

五

三十 臆 中

一

廿一七

胸が張り、胸痛、心痛、肺よりうみ血吐くを治す乳出る也、両乳の間也

卅一 中庭

食不進、吐瀉、かくの氣、翻胃、噎せけを治す、両乳の中央より一寸下なり

卅三 乳根

臆滿れ噎けても有て食事下らぬものを治す、乳より下一寸六分下陥める所なり

卅三 巨闕

胸つかへ、いさみしかく、食傷不食を治す、あばら骨の真中より二寸下也

卅四 七上院

胃病、腹痛、腹脹、嘔血、黃疸、痰、虫積を治す、臍の上五寸也

卅五 卅四 章門

せんそく、食傷、虫積疝氣を治す、臍の二寸墨より左右へ九寸開右すへし

卅六 分水

二十一
四十九

水腫、小兒夏やせ、腹脹、手足腫、大小便不通を治す臍の上一寸なり

卅七 天樞

女の血壙、赤白帶下、子宮病、月經不順、泄瀉、食不進を治す、臍の右左へ二寸つゝ、開点すへし

卅八 石門

腹軟く、上氣、嘔血、疝癩、産後惡露ひよよし但し年若き婦人には忌すへし、臍の下二寸にあり

卅九 關元

淋病、ね小便、下血、子宮病、月經不通、白赤帶下、頭痛、目暈を治す、臍の下三寸にあり

四十 中極

疝氣、淋病しようから、月經不通、小兒ね小便、小便しげく、惡血の下らぬ等を治す臍の下四寸なり

廿一
廿五

廿一
廿七

四十一 府舍 二 十七七
 座骨神經痛、腰もとの痛、下痢、腹痛、女の寸白、子宮病を治す
 四十二 大推 一 三十三
 肺病、脇滿痛、肩背の痛を治す、背の第一の推上くばむ中あり
 四十三 身柱 一 三
 小兒驚間、五疳虫一切、癩癩、狂乱を治す、背の第三の推の下なり
 四十四 風門 二 五
 胸背痛、痰せんろく、腫物を治す、背の第二の推の下右左へ各一寸五分開き点すへし
 四十五 かく癒 一 廿三
 肺病、心臟病、手足だるき病を治す、背第九推の下なり
 四十六 意舍 二 七
 惡寒、胸脇よりて嘔吐、背痛を治す、背第九推の下を両方へ三寸開くあり

四十七 肝癒 一 七三
 黄疸、腹脹、多食して身やせ、五疳虫を治す、背第九推の下あり
 四十八 脾癒 一 七三
 黄疸背引て痛、小兒虫一切、積しゆ治す、背第十一推の下なり
 四十九 胃癒 二 十一
 胃冷痛、腹脹鳴り、嘔吐不食等を治す、背の第十二推の下左右へ一寸づゝ開点すへし
 五十 命門 一 百
 虚損して頭痛、寒熱瘧病、腰腹痛を治す、背第十四推の節の下
 五十一 大腸癒 二 七三
 背こわり腰痛、腹痛、痢病を治す、背第十六推の下左右へ一寸づゝ開くなり
 五十二 小腸癒 四 七三
 淋病、ひばりたれ、赤白帶下五痛を治す、背第十八推の左右へ一寸五分開くあり

五十三 胞育

二

五

腰氣病、仰きふされつ便しぶり、惡寒を治す、背の第十九推の下左右へ三寸づゝあり

五十四 腰癒

一

二十一
四十九

腰尻痛、月經不通、赤白帶下子宮病を治す背の第廿一推れ下あり

五十五 長張

一

二十一
百

腰背の痛、大小便不通、下血、淋病、痔疾、狂亂、子宮病を治す

熱湯並に微温湯諸病治療の秘法

馬脾風、齒痛、神經痛、疝痛、肺臟充血、咽喉腫痛、佝僂質斯、腫物、創傷、打傷、轉筋等即
治し其他諸病に奇効あり

其方法

「フランネル」乃切れ又は布を熱湯に浸して半絞りとなし何處にても其患所へ額かど
當て蒸して其手拭に含める湯の熱氣冷れば更に熱湯に浸して當て斯くすること通例
十分間にして苦通を醫すへし若し病熱烈しくて十分時間ニ苦痛止まざる時は尙永く
施すへし但し馬脾風を治するには患者の頸へ額と巻き當て、蒸すへし

温器法

此ノ法ハ病ノアル所ヲ蒸ス法ナリ、即チ炊キ立テノ米飯ヲ布ニ包ミ、又麥粉、蕎麥粉等ヲ熱湯ニテカキ泥狀トナリタルモノヲ布ニ包ミ何レニテモ患部ニ當ルナリ又弱弱ナ熱湯ニテ温メ布ニ包ミ用ユルモヨシ、之ヲ巴布トモ云ヘリ

馬脾風、齒痛、神經痛、疝痛、肺臟充血、咽喉腫痛、痲瘋質斯、腫物、創傷、打傷、轉筋等即治シ其他ノ諸病ニ奇効アリ

馬痺風ヲ治スルニハフランネルヲ熱湯ニ浸シ其加減ヲ檢シテ患者ノ頸ヘ額ト卷當テ蒸スヘシ

無病トナル輕便法

毎日寒暑ヲ問ハス、朝起キテ顔ヲ洗フ時ニ滯レ手拭ニテ數回全身ヲ摩擦スヘシ其洗水中ニ鹽一握リヲ投シ其水ヲ用ユレバ益々可ナリ、此事絶ヘス實行スレバ、皮膚ノ抵抗力ヲ増シ、毛孔ノ閉塞ヲ防キ、皮膚ヨリ出スル蒸發ヲ自ラシムル爲メ、風邪ニ係ル事ナク隨テ諸病來リ侵スコナカルヘシ

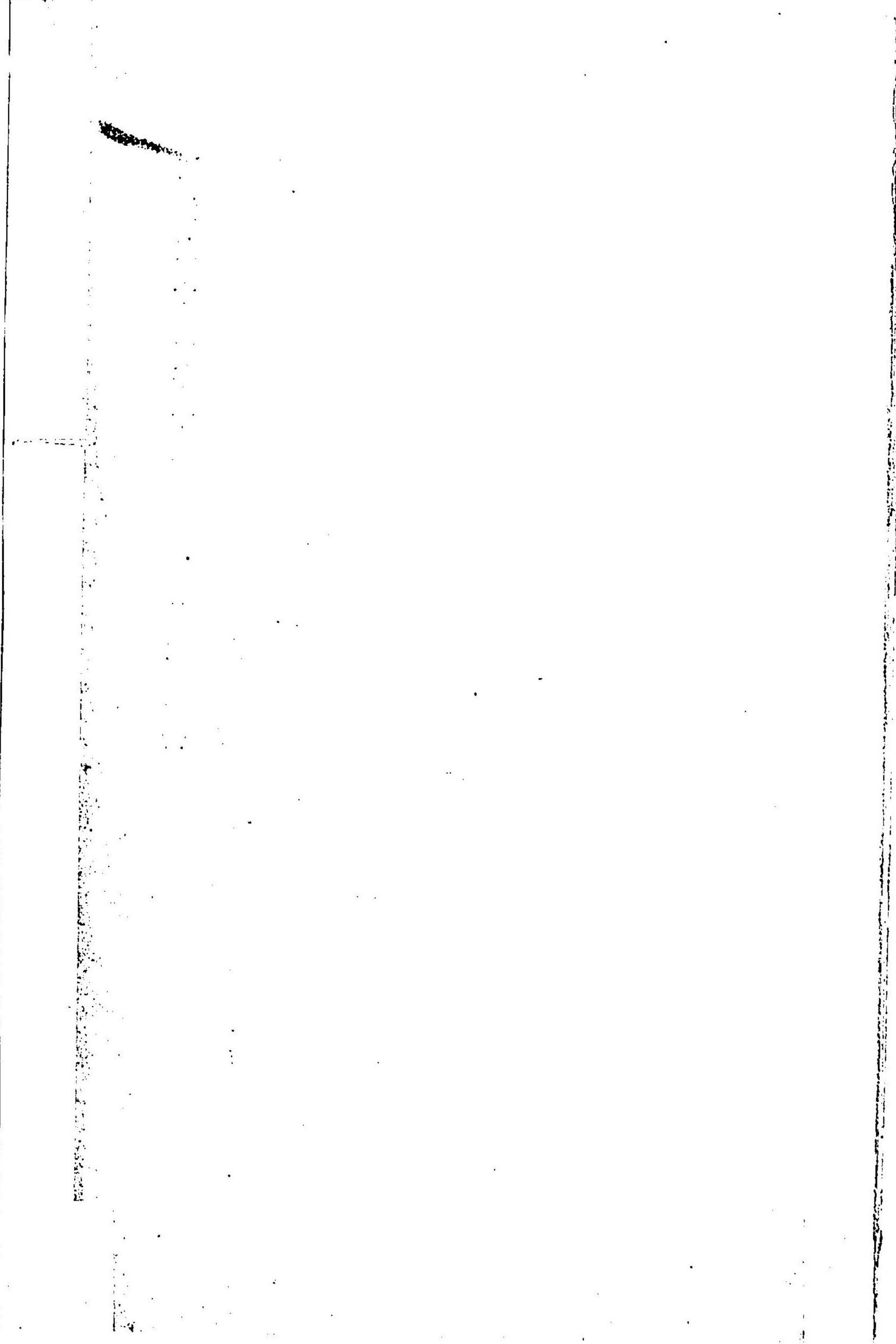
明治四十四年十一月 日印刷發行

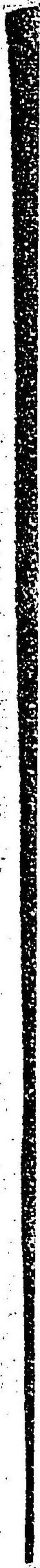
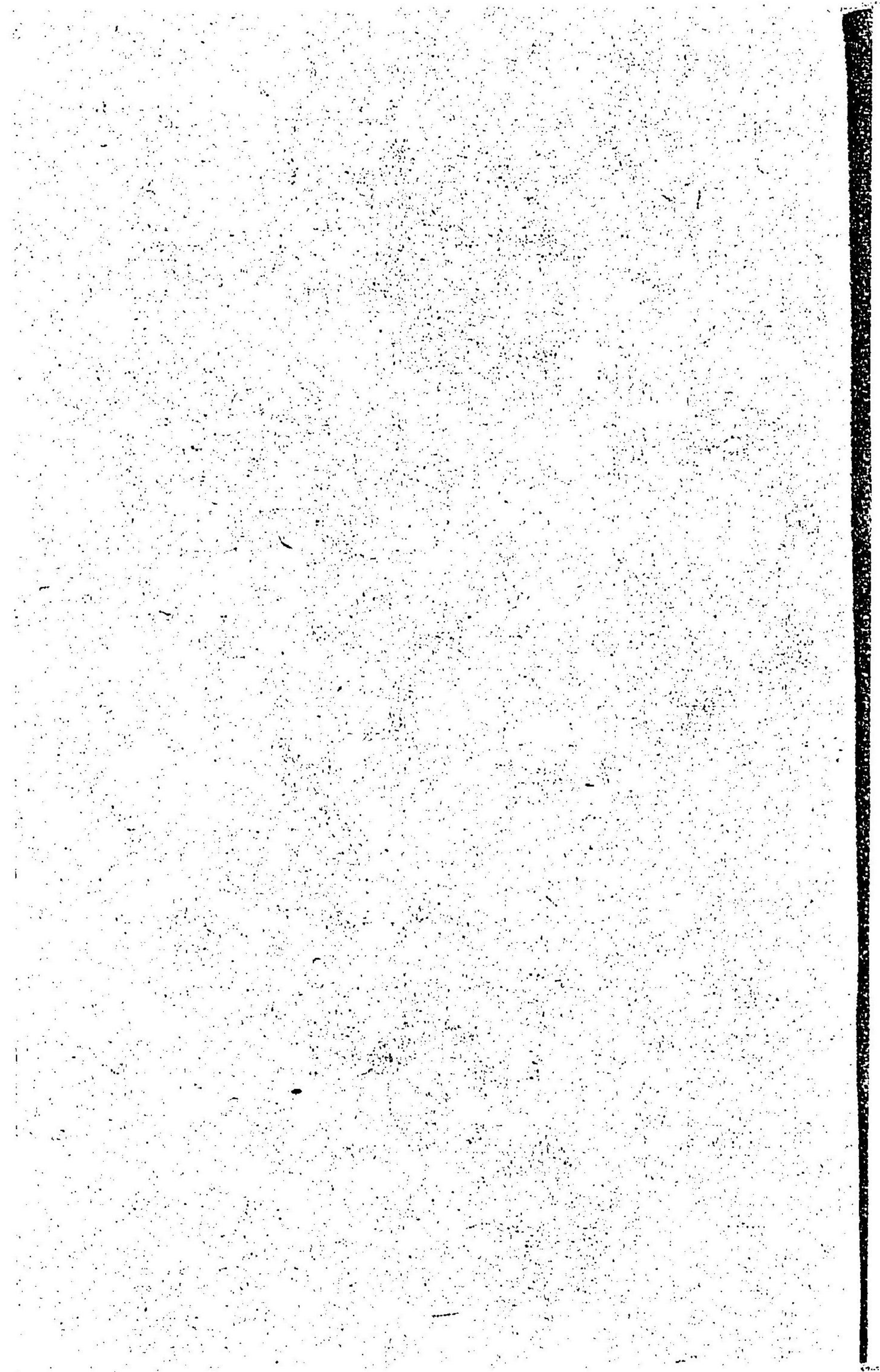
廣島縣蘆品郡戶手村三百十七番地ノ三

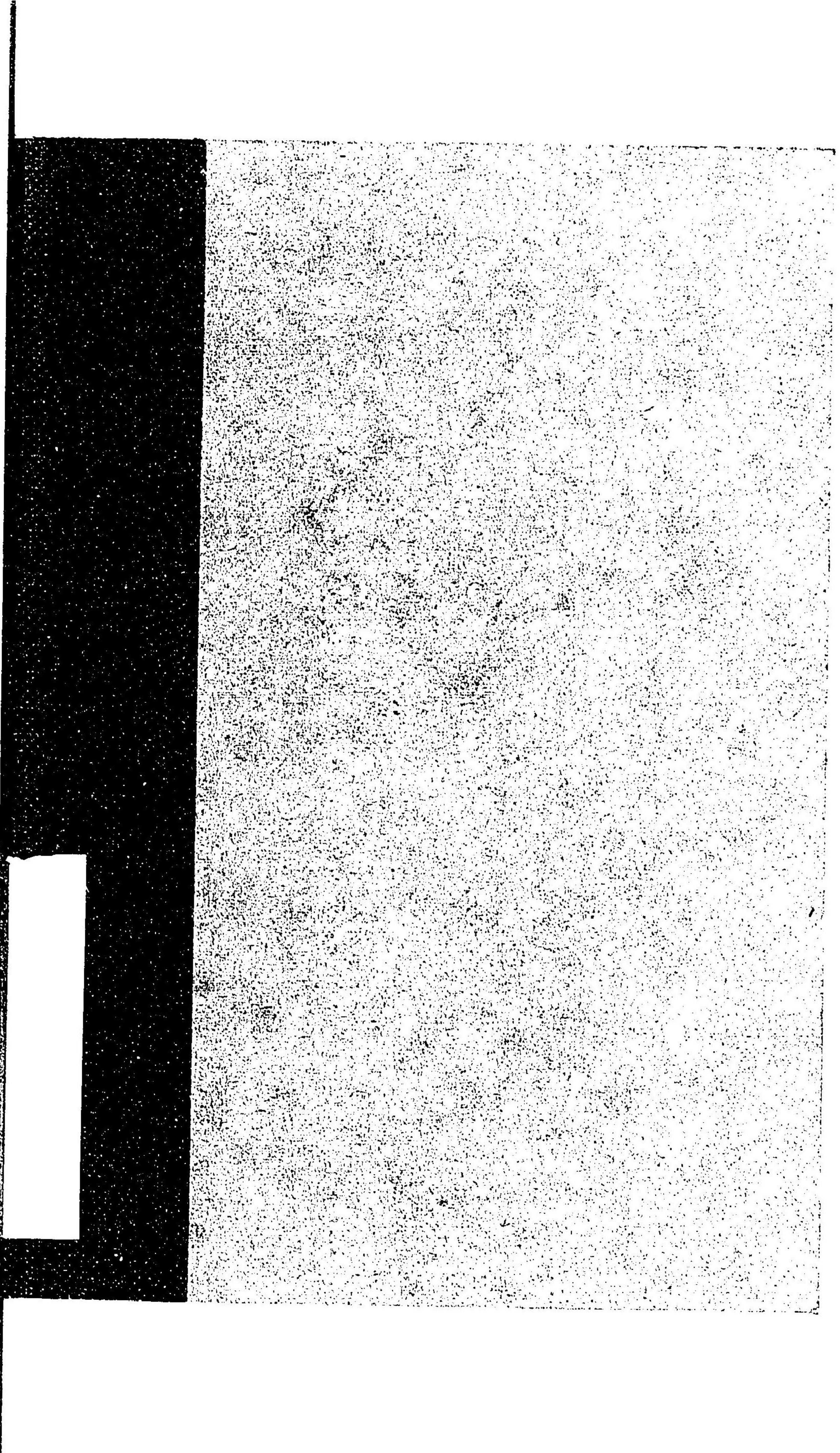
編輯兼印刷 發行人 平 田 曉

廣島縣蘆品郡戶手村

發行所 新 誠 館







特5 1

592

病源根 灸術要議
治療法

国立国会図書館

058871-000-4

特5 1-592

灸術要議

新誠館

M4 4

CBC-0449



